

淑徳大学アーカイブズ・ニュース

vol.27

2023.7.7

目次

社会事業史学会 50周年関連展示	1
学祖に迫る その5	2
表紙の写真について	2
アーカイブズの活動紹介	3
卒業生寄稿	4
アーカイブズ力をつける その5	6
アーカイブズ事務室だより／ご協力のお願い／編集後記	8



学祖に迫る その5

重田信一先生からみた学祖

淑徳大学千葉キャンパスで1年生向けに行われた「長谷川良信の思想と生涯」の講演記録から、今回は、元大正大学教授重田信一先生(1910年～2011年)の



学祖 長谷川 良信先生

講演を取り上げます。2011年に101歳で亡くなられた先生は、この講演をされた年、88歳でした。

重田信一先生は、東京市役所社会局調査課に勤務していた若いころ、良信先生にマハヤナ学園で会われました。自分は、生意気な若い職員だったと振り返られます。重田先生は、青年期の良信先生を今の自分に重ね合わせ、読み直してほしいと言われます。そして若い方のひらめきに期待して話をしていること。「まだわかったとは言えないことも、思いを伝えることによって、周りの人の方が理解してくれるかもしれない」ということがわかってきたともいいます。良信先生の若い時の気持ちは、当時の若い学生に影響を与えたと捉えられて、重田先生もその思いを学生たちに伝えていきます。

良信先生はセツルメントを「隣保事業」と訳されたが、そこには地域の人たちをよくみつめる「思い」があったことを強調します。世の中を素直に見直していき、そこからパワーを得て、広げていこうと学生たちに語りかけていきます。福祉は、思いと経済的な条件とが相まって育ってこそ近代的な福祉ができていくのではないかと、我々の日常の思いと教室で習っている

福祉の専門用語が自分の中で融合して行動に移せなければならないと伝えました。

(1998年5月29日の録音テープより)

～表紙の写真について～

社会事業史学会 50周年関連展示

2023年5月13日・14日に淑徳大学千葉キャンパスで社会事業史学会第51回大会(大会長 長谷川匡俊大乗淑徳学園理事長・実行委員長 鈴木敏彦教授、事務局長 渋谷哲教授)が開催されました。表紙の写真は、その際に学会の50周年を期して、淑徳大学アーカイブズが協力いたしましたパネル展示の様子です。15号館3階の階段脇に大型掲示板を3台運び込み、パネルを設置しました。

内容は、『社会事業史学会50年展』と題し、

- 「1 研究会・学会発足前夜」
- 「2 記録からみるこの10年—大会・会誌・会員数—」
- 「3 懐かしい写真から振り返る—淑徳大学アーカイブズ所蔵資料から—」

の3章構成としました。

この展示が展開できたのは、学会内で資料が引き継がれてきたこと、何より会員の中に学会から発信された資料を保存していた方がおられたこと(田代国次郎氏)によります。

今回の展示では、資料を将来につなげるための試みも行いました。具体的に取り上げましたのは、第一回の社会事業史学会の集合写真です(表紙参照)。

写真は被写体情報が明確になっていることで次の活用に繋がります。学会参加者の協力を得てお名前を記入していただくといういわば双方向性の展示を行いました。

これをうけ、つぎの50年に向けて集合写真が撮影されるという場面もありました。

アーカイブズの活動紹介

○写真資料は点数も多く、2021年度より専門の方にアルバイトで入ってもらい、協力しながら年史を想定して写真の整理が急ピッチで進んでいます。

○学祖長谷川良信先生の資料に関して、点検が始まっておりますし、慈光保育園の年史編纂の支援や各部門の資料についての支援も行っています。

叢書の刊行 『常福寺類聚 一』

事務室では、アーカイブズ叢書を毎年1冊ずつ刊行しております。2022年度は、浄土宗関東十八檀林の大念寺の日鑑に続き、同じく浄土宗関東十八檀林の常福寺(茨城県那珂市)の日鑑を集成した『常福寺類聚 一』を叢書12として刊行しました。常福寺副住職の小笠原聖華師に大変お世話になりました。

活動紹介

淑徳大学アーカイブズ・ボランティア

アーカイブズの古文書ボランティアは、対面での活動を行っております。毎月第二と第四の金曜日、9時30分～12時まで活動しています。2023年6月第2週で200回を数えます。

古文書の読解の作業(浄土宗大念寺・常福寺の史料翻刻、法問答録の翻刻)を進めています。檀林の教育方法である法問答録は、大巖寺の「上読龍澤山問答録記」が残されており、現在翻刻中です。

相談しながら、時には展示室の監視などの役目も担っていただく等、資料に関わることを引き受けていただき、心強いメンバーです。

特別展示Ⅱ期

『いま、読み解かれる『大念寺日鑑』—地域社会と福祉—』

アーカイブズ特別展示室にて、2022年秋から開催しました特別展示は、Ⅱ期を2023年4月3日～28日に開催いたしました。



大念寺の御住職古矢智照師はじめ大念寺の関係者の皆様には、大変お世話になりました。借用いたしました原本史料は返却致しましたが、パネル展示のみ継

続しておりますので、引き続き見学可能です(2023年9月末日まで)。

見学記録

長谷川良信の生涯(1号館4階)見学の感想

長谷川良信先生の生き様を見て、国内だけでなく国際的にも活躍してきたので、改めてすごさを実感しました(D.K)。人々の暮らしへの不安が大きくなった時こそ、社会福祉の学びや考え方が必要とされると気づかされた。淑水記念館の展示を見て、大学での学びを活かし、いかなる環境でも社会福祉の考え方を基に適切な判断ができる社会福祉士になりたいと、今回の見学を機により強く思うようになった(T.M)。初めての1号館見学で、落ち着いた雰囲気博物館に来たようだった(T.J)。長谷川先生の講義メモや家族に向けた手紙が展示されていて興味深かった(K.N)。

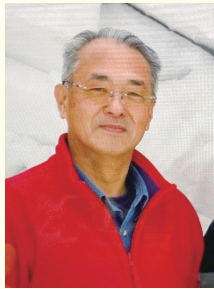
卒業生寄稿

大学生活を振り返って

福島県在住 佐伯 英俊
(5期生 昭和44年4月～48年3月)

大学生活の始まり

高校の担任から千葉市内にある淑徳大学を受験してみないかと勧められた。福祉の道に進みたいと考えていたので、受験を決意したが、一人でどこにも行ったことがなかったので、母親に連れられて大学へ向かった。



当時、松戸市に住んでいた4歳年上の叔父が、淑徳大学の1期生として在学していた細谷昭夫氏に連絡してくれて、出迎えを受けた。なんと細谷氏は私の高校の先輩であり、恩師の息子さんであった。昨日のことに覚えている。

寮生活

家を出て一人で生活するのが初めてのため、雄飛寮に入ることにした。部屋は二人部屋で1年先輩の北海道出身の土門(博行)氏と同室になった。1年間は寮生活を送り、お陰で友達も出来た。寮に入ってうれしかったのは、それまで10歳下の弟と机を共用していたが、机と本箱を購入してもらえたことであった。寮は、大学に隣接しており、通学するにも学食にも近かったので困ることはなかった。

暗くなると海側の空が真っ赤に見えて、まる

で火災のようであった。しかし、サイレンは聞こえない。これは川崎製鉄所の溶鉱炉から炎が出ていたのである。時には、洗濯物を外に干していると風向きによって煤で汚れたこともあった。

大巖寺の思い出

また、先輩から大巖寺境内に行く時は、空を見て歩くようにと注意された。「とにかく木の下を通る時は、上を向いて気をつけるように」と。当時は、川鶉が飛来してきていて、川鶉の糞は酸が強いため糞を落とされると、衣類に穴が開いてしまうとのことで、木々の葉も枯れてしまうのだということであった。私は拾ったことはなかったが、川鶉は捕った魚を落としていったこともあったそうである。

授業のこと、大学生活のこと

当時は、丸い本館と別棟に教室や体育館があった。クラスは、5クラスだと記憶しているが、どの授業を受けるかを自分で決めることに戸惑いを覚えた。高校とは違って、クラスの仲間と一緒に授業を受けることは希で、受ける授業ごとに教室を移動して高校とはずいぶん異なることを実感した。外国語はドイツ語とフランス語が選択で、フランス語はなんとなく響きがいいので選択したのだが、難しかった。

高校までは、自分で授業を選択することはなかったのに、大学では、卒業後のことを考えて資格を取得し、そのために必要な単位を取得することになる。皆には、当たり前だったことかもしれないが、のほほんと生きてきた自分には、こうしたことも目からうろこであった。

授業では、先生方が自分の著書を教科書

に使用されていたりして、先生ってすごいんだなと思いつつも、なかなかついていけずいた時、友人たちの存在は大きく、共に学べたことが4年間の生活に大きく影響したと思う。

初めてのコンパ。それまで人前で話すこともなかったので、自己紹介をするのがやっとなかった。

雄飛寮は1年で退寮し、松ヶ丘に部屋を探し6畳間に初めての一人住まいをした。銭湯やスーパーも近くにあったので、自炊するにはさほど困らなかった。たまには、弁当を作ってキャンパスの青空の下で食べたのは懐かしい。

運転免許取得

2年生の時に運転免許を取得した。自宅から通える場所に自動車教習所があり、同じ雄飛寮にいた友人がそこに住み込んでいたこともあり、教習を受けた。教習所内の草刈りを友人と行ったが、1週間で過ぎた頃に最初に刈ったところが伸びてきて、やめる羽目になった。これも懐かしい思い出である。

友人が教習所にいたお陰で、教官たちとも親しくなり免許を取得することができた。福島から弟が上京した時には、教官に東京湾を一周してもらい、帰りはフェリーで千葉に戻った。教官の運転は、法規通りで「教官は、スピード出さないんですね」と言うと、「僕は、プロだよ」と返ってきた。直進だけでなく左右に後退する時も方向指示器で示すことも教わった。その言葉と指導は、今も守って運転している。大学にあった車を運転して隣の大学へ、大学祭のアピールに行ったことも懐かしい。

学生運動

学生運動の波は、単位取得にも及んで授業料値上げの反対運動をした。しかし、いつの間にかセクト同志の運動に変わっていて、授業料云々はどこかに行ってしまったように思う。成田空港建設反対の運動も起きていて、市内をデモ行進するほどになっていた。いわゆる三里塚闘争の始まりである。

千葉市内にあった田畑百貨店が火災で焼け、社長が亡くなった。市ヶ谷では、三島由紀夫が自衛隊に立てこもり自決する。4年間の学生生活は、このように刺激が多かった。

現在進行形

多感な青春時代であった。卒論では「なぜ人は生きるのか、その存在について」をテーマにして学んだ。このテーマは現在進行形であり、とにかく生きるために何ができるか、自分でできることを探し続ける旅が人生なのかと思う。

1期生の細谷氏が同窓会福島県支部結成に尽力され現在も同窓生が楽しく集っている。

そして、コロナが明けた本年3月15日、久々に淑徳大学千葉キャンパスの卒業式に参加した。学生時代には県内を歩くことはなかったので、この折に3泊して県内を一周してきた。

すべての皆さまに感謝。

(今回は、佐伯 英俊さんにお時間を割いていただき、大学時代を振り返り、原稿をご執筆いただきました。記して感謝いたします。ご執筆後に「被災により大切なアルバムをなくしてしまいましたが、新たな思い出が出来ました」と佐伯さんから連絡を頂戴しました。)

アーカイブズ力^{りょく}をつける

その5

学校のアーカイブズ 後編

清水 邦俊

前回に引き続いて、今回も学校アーカイブズのなかの「大学アーカイブズ」について、どのような状況にあるのか、ご説明をしたいと思います。

大学は教育、研究、産官学連携や地域連携などといった様々な機能を有しており、直接的・間接的に我々の生活に関わる役割を担っています。組織的に大学を大別すると、学校を運営する組織と教育・研究する組織になります。もちろん、重複する組織やこの二つに属さない組織もあります。学校を運営する組織は理事会や評議員会、入試や人事、広報、教職員の給与などで、教育・研究する組織は各学部会や教授会や附属・附置研究所などです。大学博物館や大学アーカイブズといった文化的施設や、同窓会などは両者に属さない独立した組織として扱っている大学もあります。

これらの組織のもとで、日々大量の文書を作成し、また学内・学外から大量の文書授受が行われています。それらは上記にあげた会や、各学部の研究室で作成された講義レジュメや各種資料など、枚挙にいとまがありません。一方で、入試案内や大学案内、各種イベントのパンフレット、各学部ごとに作成した報告書や記念誌など様々な形態の発行物があります。最近では大学独自のキャラクターや、それをあしらった大学オリジナルグッズ、ロゴマーク入りグッズなどもあります。アーカイブズ機関

がグッズも収集対象資料とするか議論がわかるところですが、このようなモノ資料も併せて保存している所もあります。

* * * * *

大学の機能の重要な柱の一つに、研究があります。各大学の強みを活かした研究が行われていますが、その過程で発生・作成された資料をプロジェクトごとに整理・公開するようになってきました。

例えば京都大学では「研究資源アーカイブ(<https://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/>)」という部署を設けて研究分野を問わず公開しています。京都大学は法人文書を扱う大学アーカイブズが先に設置され、その後、研究資源アーカイブが設けられました。研究資源アーカイブは科学研究費助成事業や研究プロジェクトによって発生した研究資源に特化したアーカイブズになります。ここで対象としている資料は、写真・映像・録音、フィールドノート、研究会の記録、講義ノート、論文原稿などの一次資料です。成果の活用だけではなく、研究の経緯がわかる資料を公開することにより、例えば成果が得られなかった研究を別な視点から再度研究したり、また新たな発展的な研究の着想を得たりすることもできます。よくアーカイブズ機関が「宝の山」「アイデアの宝庫」と言われる所以はここにあります。

大学アーカイブズや研究資源アーカイブズに限らず、全てのアーカイブズに対して言えることですが、アーカイブズの活用法は歴史や過去の出来事を調べるだけではなく、これまでに行われた事象や研究・プロジェクトなどを参考にして、そこから新たな着想を得る場でもあります。

* * * * *

理想的にはアーカイブズが全ての部署で作

成された文書を一元的に管理することかと思
います。では文書がアーカイブズに文書が移
管されるまでの一般的な流れを紹介します。

文書が作成されたら一定期間、作成部署で
保管されます(自治体では一般的に10年)。こ
れは、まだプロジェクト等が継続していたり、
終了したとしても一定期間は作成部署で利用
や参照する必要があるからです。その後、組
織の文書保存規程をもとに選別を行った後、
中間倉庫(レコードセンターともいう)に移管し
ます。そして一定期間を経た後(約10年)、最
終的な選別を行いアーカイブズ機関に移管と
なります。要するに文書が作成されてから、場
合によっては、20年やあるいはそれ以上の年
月を経てアーカイブズ機関に移管されるわけ
です。

* * * * *

大学の場合、大学運営に関する文書や研
究資源の文書とも、アーカイブズ機関で一
元的に保存・管理するようにした方が、文書を作
成した部署としても検索リストの作成や出納
などの管理面、保管をするスペース面での負
担が軽減されるのではないのでしょうか。しかし
ながら、一般的に文書を作成した部署は、永
続的に現場で活用しようとする傾向がありま
す。文書検索の利用の対応の面から、また
日々の文書管理面から考えると、文書の保
存・管理を専門とするアーカイブズに移管する
方が、双方にとって有意義です。

例えば、近年は各大学でキャラクターを製
作して大学のイメージアップに繋げています。
キャラクターの企画、デザイン画などの文書は
基本的には作成した部署が扱うことになる
と思います。そのキャラクターが今後、数十年に
亘り使用されていくと、キャラクター自身や時
代に則したデザインへと変化していくことでし

よう。アーカイブズに移管することでそれら
の変化を追うことができます。

* * * * *

企業の例になりますが、アメリカのウォルト・
ディズニー社にはアーカイブズがあります
(<https://d23.com/walt-disney-archives/>)。そこ
に収蔵されている画像や映像によってミッ
キーマウスの年代ごとの変化がわかります。ま
た今日、ミッキーマウスの誕生日となっている
日には、ミッキーマウスが映像として初めて
放送された日です。このようにキャラクター一
つをとっても根拠・証拠となる資料がアーカイ
ブズ機関には残されているわけです。

翻って、淑徳大学の公式キャラクター、SHU
KUTOKUMA[®]の関係資料を残しておけば、
今後はキャラクターの変化を追うなどの様々
な活用ができることでしょう。

今回は、一般企業が設けているアーカイブ
ズについてお話いたします。

清水 邦俊(しみず くにとし)

認証アーキビスト。國學院大學卒業後、千葉県文書
館や高知県の土佐山内家宝物資料館(現、高知城歴
史博物館)にて古文書の整理に従事。2018年から
JICA日系社会シニア協力隊に参画。ブラジルのサン
パウロ市にあるサンパウロ人文科学研究所にて日本
人移住者や日系人が残した個人資料の整理に携わる。
帰国後は高知市内にあるオーテピア高知図書館にて
歴史的な文書の整理に従事したのち、2022年10月か
ら国士館史資料室勤務。

淑徳大学アーカイブズ叢書の翻刻メンバーとして、
『大念寺日鑑』などの翻刻にもかかわっている。

アーカイブズ事務室だより

事務室活動記録

(2022年10月～2023年3月)

- 資料寄贈：細谷昭夫氏・長谷川仏教文化研究所・同窓会・徳丸義明氏・トリトンクラブ・千葉キャンパス総務部・生浜歴史調査会・淑徳大学附属図書館 千葉図書館・淑徳巣鴨中学高等学校
- 資料閲覧・貸出：淑徳巣鴨中学高等学校
- 聞き取り協力：武田逸朗氏・西塚 洋氏・長谷川匡俊氏・菅谷厚子氏・関口カツ子氏
- 調査：大念寺(10/20,12/12,3/16)
- 大巖寺宝物殿展示・開館支援：(10/29・30,11/22,11/23見学対応,12/10,1/10,1/21,2/7,2/18,3/7,3/11,3/25見学対応)
- 撮影：千葉キャンパス学園祭(10/30)・慈光保育園(12/6)・榎英子教授保育文化構築プロジェクト人形劇公演(12/20)・大巖寺(2/3)
- 市原特別支援学校鶴舞分校産業現場実習受入(10/11～13)
- 視察：国史館資料室(11/19)
- 協力：教育改革推進事業(榎英子教授)・慈光保育園年史編纂・記念館準備、そのほか学園内の資料整理構築支援など
- 刊行物：『淑徳大学アーカイブズ・ニュース』第26号(1/11),アーカイブズ叢書12『常福寺類聚 一』(3/10)

以上

〈ご協力のお願ひ〉

*資料の受け入れ、受け入れ後の資料整理はアーカイブズ事務室の重要な業務ですが、受入前の資料寄贈のご相談もお受けしています。寄贈を希望される方は、お気軽にアーカイ

ブズ事務室へご相談ください。特に福祉関係の資料を収集しております。

*廃棄の状況が生じた書類等については、アーカイブズ事務室へご相談ください。

*コロナ流行に関するメール配信等は、各キャンパスより、情報を提供いただき、ご協力いただきました。

*各部門・部署で刊行された冊子など、寄贈にご協力いただいております。年史を編纂するとき、またその時代の状況を振り返るときに役立ちますので、引き続きご協力の程お願いいたします。

〈編集後記〉

日ごろからアーカイブズ事務室にご協力いただき、ありがとうございます。

表紙写真でも取り上げました展示協力では、双方向性のある展示を試行してみました。将来に資料をつなぐ方法は、事務室としても工夫して参りたいと思います。

卒業生の方々に在学当時のことをお教えいただきながら紙面を充実させる4・5ページは、いわば資料を作り出しているコーナーといえます。今回も原稿を頂戴いただきましたが、その方に合った方法でこの2ページを構成していきたいと考えております。

引き続き、ご協力のほどお願いいたします。

(大島 聖子)

淑徳大学アーカイブズ

〒260-8701

千葉市中央区大巖寺町200 1号館3階

TEL 043(265)7526 <直通>

✉ アドレス archives@soc.shukutoku.ac.jp



SHUKUTOKU